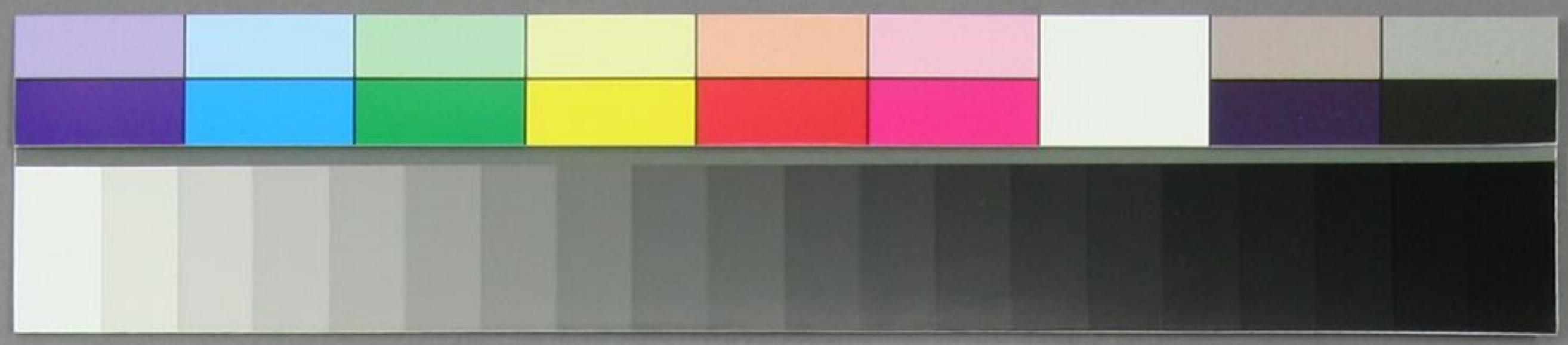


謹啓

時下會津、陸奥、東北、
 此等、舟楫、
 少き、三月、渡航、際、
 一方、舟、後、援、補、等、
 深、慮、激、能、在、
 十二、今、の、研究、調査、
 後、厚、誼、の、為、分、
 出、発、以、来、
 夫、れ、多、念、頭、を、
 折、柄、出、発、
 乗、船、
 と、後、
 迄、全、く、
 非、常、な、
 無、理、
 滞、
 方、面、



滞於中一屆之度と云々各
方面より稍々満足を得
研究したる一帖の準備を整へ
五月初旬英國に渡航せし
致し其九日より十日
再び變じて急性性肺炎加勢
となり之八度五分の熱廿日
以上連続致し衰弱日に
加りて折柄京都大学
柘尾博士及米國名醫
ブリル氏を診断せし受け
到底凶漸の不可能を
勿論病勢の速き旬に
遂に帰朝し少くも四月
絶對靜養の必要を宜き
せられ痛根実子限りなく
得共せしは餘命を全し
此の間に法皇子諡々
恙なき再生の時機と
血涙と呑みこむる聖路
加病覺海内醫士皆

養ふべき再生の時機

血涙と呑みこむる聖路

加病院堀内醫局に同道

帰朝の途より傳へ去つた日

無事帰宅せしむ

尾藤杯を目下之危険は

無きのみも何を夫等下熱

致さるる為の疲勞此上を

歩りも困難にせ帰宅早

入澤工屋内澤士の診察

を受たりし絶対的症數

月寫の療養食と無事

壽命せられし奇蹟

平昔深厚なる佳同情

對しむるは身親しくは伺

事傍はとくなき之を杯

の有様も御令を差

止のされ居る儀付何事

為るのる佳無事許答

と度取急さ赤誠と披

瀝致しむ茲胸中

事者法身なる法同體に
對しむるは身親しく法同
事情は一字なきの法を標
の有標も一箇分ちも差
止のされ居りませ儀。付何事
為るの法は無き法許答
さ度取危き赤誠と披
瀝致しむ。茲に胸中
一片感激の微衷迄奉
納度病中自然代筆
の儀。刻々度法礼
奉る法挨拶如斯に座せ
敬具

壬午年
六月二日

望月小石

大隈侯爵閣下
侍史



年込澤阜箱田
 侯爵大隈重信閣下
 侍史





大正八年六月廿日

望月小太郎

宅 東京青山原宿百七十七番地十四號
社 東京市京橋區山下町一番地
(電) 新橋 九九九八番